

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	學海浮萍：雜錄
Author(s)	愛樂生
Citation	龍南會雜誌， 4： 3 6 - 4 0
Issue date	1892-02-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/3759">http://hdl.handle.net/2298/3759</a>
Right	

ツノ老翁ニ聞ケバ則チ曰ク「恵みの露のかゝらすは。民草いかてさかゆへき。玉のうてなも柴の戸も。君か代祝ふさうづきに謳ふ今日こそ樂しけれ」ト若シ藤房ヲシテ在ラシメバ。當サニ欣抃雀躍措ク能ハザル可シ。我レ友ノ言ニ由ツテ感慨滿腔。嗚然起テ遙カニ東北ノ天ヲ拜ス。

## 學海浮萍

學海邈焉。其ノ常ニ起ル所ノ千變萬化、固ヨリ片言隻語ノ能ク盡ス所ニアラズ。今米國發兌ノ「普通學術月報」英國發兌ノ「自然」ボブユラー、サイエンス、モンスデー及ヒ其他ノ學術雜誌ヨリ、事實ノ新奇ニシテ興味アリト認ムル者若干ヲ抄譯輯錄シ、名ケテ學海浮萍ト云フ。要唯其一班ヲ窺フニアルノミ、若シ夫レ其全豹ノ如キハ則チ吾人ノ敢テスル所ニアラズ。

壬辰二月

愛樂生識

### ○「ニツケル」ノ毒

「ニツケル」ハ近來少ナル貨幣若クハ鍍金ノ品物ニ使用スル爲メ歐米各國ニテ盛ニ行ハレ。又我國ニテモ洋箔或ハ日耳曼銀ト稱シ用ヒ居ル「ニツケル」合金ハ、西洋風ノ食物道具ニ使ヒ、殊ニ鍍或ハ眞鍮ニテ製シタル器具ノ鍍金ハ之ヲ用ユルコト多シ然ルニ今度「ニツケル」ノ毒ハ遙ニ鉛、銅ニ勝ルトノ事ナレバ、「ニツケル」ニテ製シタル器具若クハ「ニツケル」ニテ鍍金シタル器具ヲ使用スル人ハ宜ク注意スベキナリ。

## ○寄生ノ魚

此頃其形、鰻ニ似タル最モ少ナル寄生ノ魚ヲ發見シタリ。世界各地ノ海ヨリ得タルモノヲ數レバ合セテ十數アリ。此魚ハ通常海中ノ動物体中ニ於テ穴ヲ爲シタル所ニ附着ス、殊ニ「たこまくら」類ノ吸氣孔ノ中ニ多シ。又眞珠ヲ生ズル牡蠣ノ貝殻ノ内部ニモアリ。此魚ハ其寄生スル所ノ動物ヲ害スルコナシ。蓋シ其寄生スル所ノ動物ヲ食物トセズシテ、穴ノ中ヘ海水ヨリ流レ込ム極メテ少ナル有機物ヲ食物トナセバナリ。故ニ此魚ハ寄生ト云ンヨリ寧ロ共生ト云フ方穩當ナルが如シ。

## ○理學ヲ教授スルノ價值

SIR JAMES PAGET ノ説ニ由レバ、理學ヲ教ユルノ重モナル價值ハ只ニ事實ヲ教ユルノミナラズ、事實ト眞理トヲ得ル所ノ順序方法ヲ教ユルニアリ。理學的ノ教育ニ由テ四個ノ大切ナルコトヲ教ユルヲ得、第一、觀察ノ力、(第二、精密ノ慣習)、(第三、眞理ヲ知ルノ容易ナラザルコト)、(第四) 已ニ知リタルモノ、理ニ由テ知り得ベキモノ、理ヲ考究スルノ方法。夫レ正シク觀察スルノ困難ナルハ此迄人ノ爲シタル凡テノ理學的發見ニ由テ明カナリ、如何トナレバ此ノ如キ發見ハ皆人ノ常ニ見ルヲ得ベキ事實ニシテ人ノ見ザリシモノヲ觀察シテナシタルモノナレバナリ。理學ノ基礎トスル所ハ事ヲ精密ニ觀察シ、之ヲ精密ニ記錄シ且ツ分類スルニアリ、而シテ之ヲナサシニハ事實ヲ觀ルニ當テ直ニ之ヲ記錄スルノ慣習ヲ起サルベカラス、例ヘバ画工ガ正キ肖

像ヲ画カントスルニ當リ、幾度モ其實物ヲ觀テ、見ル度毎ニ之ヲ精密ニ寫スガ如シ。理學ヲ修メ  
ンニハ画學ノ如ク精密ニセザルベカラズ。理學的教育ノ高大ナル價值ハ極メテ精密ナル研究ノ  
緊要ナルヲ及ヒ度々ノ觀察、試驗、穿鑿ノ緊要ナルヲ明カニスルニアリ。故ニ理學的教育ハ眞  
理ヲ愛スルノ念ヲ生ゼシムルモノナリトテ之ヲ贊成スル人ノ誇ル所ナルモ亦タ宜ナリ。又 STEA  
JOHN LUBBOCK ガ銀行頭取ニシテ理學研究ニ由テ高名ニナリタルヲ以テ觀レバ理學研究ハ尋  
常ノ職業アル人ニ適セズト云フノ非ナルヲ明カナリ。尋常ノ職業ニ由テ得タル慣習ハ却テ理  
學ヲ補助スルヲアリ、是レ職業アル人が理學研究ニ志スルハ其研究シタル事件ノ内ニ實地ニ有  
用ナルモノヲ發見シ、之ニ由テ其研究ニ興味ヲ添ルヲアレバナリ。

### ○色ノ寫眞

寫眞ニ用コル藥料ハ赤、黃等ノ光線ヨリ青、紫等ノ光線ニ感シ易キガ故ニ、此迄色ヲ寫眞スルニ  
濃淡ノ具合ニ宜キヲ得ザリシガ、此頃獨逸ノ寫眞學者 VOGEL 氏ハ黃、赤等ノ光線ヲ吸収スル藥  
料ヲ通常寫眞ノ藥料ニ混マテ用レバ此等ノ光線ニモ感シ易クナラントノ理ヲ考出シ、種々試驗  
ノ末遂ニ EOSINE ト云フ藥ヲ早取板ニ混用シ寫眞シタリシカバ、黃色ノ所ハ鮮明ニ寫リタレド  
モ、猶ホ青キ所強キニ過ギタレバ青光線ノ一部分ヲ吸収セシメントテ、黃色ノ玻璃ヲ物体ト寫眞  
器械ノ間ニ挿入シタレバ、其寫眞ノ濃淡ハ藍色、綠色、黃色、赤色等ノ區別ナク皆天然物ニアリシ  
ト同様に現ハレ出タリト云フ。

○亞米利加ノ發見者ハ「こゝろむばす」ニ非ラズ

亞米利加ヲ發見シタルハ「こゝろむばす」ノ如ク思フハ一般ノ事ナルガ、近頃 EDWARD P. VINING 氏ノ穿鑿セラレタル所ニ由レバ、今ヨリ千二百年程以前ニ已ニ「あふがにすたん」ヨリ佛僧ノ一群ハ「あめりか」ニ至リシト云フ。蓋シ「めきしこ」ニハ此僧侶ノ來リシヲ言ヒ傳フル口碑猶ホ存セリト云フ。

○兒童体量ノ増加ト其身長ノ伸長トノ比例

丁抹ノ盲啞院長 MAILING HANSEN 氏ハ其管理スル所ノ兒童百三十人(内七十二人男子、五十八人女子)ニ付キ体量ノ増加ト身長ノ伸長トノ比例ヲ研究シ最奇妙ナル結果ヲ得タリ。氏ハ二十人ツト一所ニ毎日四度宛即チ朝、晝飯前、晝飯後、就寢時々体量ヲ計リ、又毎日一度宛各身長ヲ測リタリ、カクノ如クスルコト二年ニシテ体量ノ増加ハ身長ノ伸長ニ從ハザルコトヲ發見セリ、而シテ一年チ大凡三期ニ分ツコトヲ得タリ。体量ノ増加ハ八月ヨリ十一月迄最も多ク、其レヨリ四月ノ中旬迄ハ長ク延ビルニ從ヒ、又其ヨリ八月迄ハ最も少シトス。又九十兩月中身長ノ伸長ハ六七兩月中ヨリ其五分ノ一ノミナリト云フ。由是觀之、秋ヨリ初冬迄ハ体量ハ増加スレモ身長ハ殆ント伸長スルコトナク、初夏ニ至レバ体量ノ増加全クナク、身長ノミ伸長スルガ如シ。HANSEN 氏ハ樹木ノ成長ニ付テモ同様ノ比例ヲ發見セリ。DR. W. R. MILLER ハ四千人ノ囚人ニ就キ十三年間研究シテ上ノモノニ少シク異ナル結果ヲ得タリ。其說ニ依レバ、男子ノ体量増加ノ最も多キハ九月

ヨリ三月迄ナリト云フ。

○地球上最寒ノ地

地球上最モ寒キ所ハ西比利亞ノ VERCHOJANSK ナリト AUSTRALAND (雜誌名) ニ見ユ。亞細亞最寒ノ地方ハ「シナ」河ノ北ニ在リテ「やこしつく」ノ氣象メテオロ、ゲオグリスデーシヨ觀測所ニテ觀測シタルモノガ最低溫度ナリ。此地ノ一年中平均ノ溫度ハ攝氏零下十七度ニシテ、夏冬ノ溫度ノ差ハ五十四度ヨリ少カラズ。一月中平均溫度ハ零下四十九度ニシテ、七月中平均溫度ハ十五度ナリ。一千八百八十五年一月十五日ニハ溫度降リテ零下六十八度ニ達シタリ (未完)

文苑

富士山

園哲雄

足柄箱根大麓間危峯萬仞甲塵寰絕巔凝結千秋雪六月皚々不二山

梅花

欺雪芳姿特地新亭々獨立有精神不隨桃李爭紅紫素面都無一點塵

擊劍

銳利應期日本刀左揮右擊勢逾豪一人之敵君休笑亦是陶公百甕勞

送中西先生航北亞米利加

高見彥太郎